

一人の手

第17号
発行日 平成十八年一月二十八日
発行所 佐藤ひろゆき後援会
所在地 〒527-0024 鶴岡市朝陽町1-0-11
電話 0235-24-3402 FAX 24-2713
電 0235-24-1411 FAX 24-1411



人が元気・まちが元気・ 自然が元気な・鶴岡に

佐藤ひろゆき

新年明けましておめでとございます。昨年同様、皆様のご支援により、再び新鶴岡市議会に送っていただきまして、ありがとうございます。今年も、明るく、元気に、積極的に、議員活動をして参ります。市民のニーズを真摯に受け止めて、見極め、実現するための政策を研究し、深めて、議員としての幅と力をつけて参りたいと思います。

議会においては、「厚生文教常任委員会」の副委員長をおおせつかり、新しい鶴岡市の「健康と福祉、教育」に役割と責任を果たすことになりました。市民の安心のために「国民健康保健運営協議会」委員、市民の安全を守りつくりだす「消防事務組合協議会」議員、旧庄内病院跡地を中心とした開発を審議する「拠点都市整備委員会」委員に所属しました。

今年も、皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

私は、新しい鶴岡市をつぎのようなまちにするために、今年も頑張ります。

人が元気な鶴岡に（人づくり）

町内会やグループ単位での学習会、座談会を通して地域の現状を知り、住民みんなで参加し、地域活動やボランティア活動に気軽に取り組める、福祉のこころを広げていきましょう。みんなの知恵と工夫が活かされるよう、人づくり、こころづくりに取り組んでいきましょう。

まちが元気な鶴岡に（地域づくり）

地域にあるまちづくりや福祉団体、福祉グループ、社会教育団体、学校、福祉施設などと協力することで横のつながりを強め、ボランティアや、地域のリーダーを育てながら地域福祉を推進していきましょう。

地域のみなが気軽に集え、交流と情報収集・発信源としてコミセン、地区の公民館、集会所、サロンなどの機能を充実させていきましょう。

自然が元気な鶴岡に（環境づくり）

自然を大切に、ゴミを捨てたりしない、伝統的・歴史的なものを遺し、子ども達が安心して登下校できる道、高齢者や障害のある方などを理解してバリアフリーに努めるなど私たちが住みやすい環境のまちにしましょう。



1月4日 伊勢西宮（神明町）で後援会員の方々と初詣



佐藤ひろゆき後援会 会長 小林 康一

明けましておめでとございます。佳き新年をお迎えることとお喜び申し上げます。

さて、昨秋実施された、新鶴岡市に伴う市議会議員選挙は、佐藤博幸候補（当時）にとっては、わずか二年半の議員活動後で、厳しく苦しい選挙戦でした。心配や不安が杞憂と言わなければならない、上位当選の栄を得ることが出来ました。ひとえに会員の皆様の大なご奮闘のおかげと、厚く厚くお礼申し上げます。

敬愛する博幸議員は市議会議員二期目に入り、重責を担うことになりました。これからの四年間は、合併に伴う問題が山積しており苦難の道かと思えます。然るにかかる中において、博幸議員は市民の絶大な期待を背負い、いよいよ真価、実力を発揮すべく燃えております。必ずや市民の期待に応えるべく、実績を上げてくれるものと確信致します。後援会としまして、これまで以上に支援を図る所存です。博幸議員におかれましては、誕生を重んじ、いよいよ精進されますよう希望して、念頭のご挨拶とさせていただきます。

「変わるもの」 「変えてはならないもの」 「変えるべきもの」

今、社会は激しく変動し、小泉内閣は基礎構造改革を掲げ取り組み、各分野にその影響が現れています。これから、社会、経済、国と地方、社会福祉など制度が激しく変化していく中で、「変わるもの」と「変えてはならないもの」と「変えるべきもの」をしっかりと見極めて取り組まなければならないと考えています。これから、さまざまな制度は社会の変化とともに必然的に変わっていきますが、市民から負託を受けた市議会議員として、「変えるべきもの」には勇気をもって対応していかなければなりません。

しかし、この地に長年にわたって培われ、先達から受け継がれてきた歴史や良き伝統、「鶴岡の心」など「変えてはならないもの」は何があってもしっかりと守っていかなければならないものもあります。

これからの難しい社会では、自らの政治理念と信条をしっかりともち、判断し、力強く行動していくことが必要であります。

佐藤ひろゆき



「官から民へ」

「官から民へ」の目的の第一は、苦しい自治体財政の緩和で、二〇〇三年施行の「改正地方自治法」によって進められています。しかし、遅々として進まないのが現状です。鶴岡市も福祉施設や保育園、文化施設などに「指定管理者制度」を活用して民間委託を進めています。これからもっとさまざまな分野に導入するように提言していきます。行財政改革は私の取り組む大きなテーマの一つです。

市民は「官から民へ」の流れの中で、いろいろな分野において公務員や政治家に任せるのではなく、官に任せれば税金で賄うことになるのだから、自ら、そのことが「官のしなければいけないことなのか」、「民はできないことなのか」、「民が引き受ける力と仕組み」を考えていくことが特に重要です。市民が官へ丸投げをしたツケは市民自身へ返ってくるのだから。

佐藤ひろゆき



「次世代育成支援政策研究会」を立ち上げ

十二月に、鶴岡市議会の会派「新政クラブ」の議員に、同僚の山中議員とともに呼びかけて、少子化対策や一人の人間が育つ過程における赤ちゃんから若者の自立までの政策を勉強して実行していく「次世代育成支援政策研究会」を立ち上げました。

第一回は、十二月に「朝陽第一小学校の学校図書館教育について」勉強会をしました。二月には本市の「次世代育成支援計画について」勉強会の予定です。



佐藤ひろゆきの活動報告

2期目（平成17年10月～17年12月） 議員活動報告



9月25日 鶴岡市障害者スポーツ大会 卓球出場



平成18年2月（12月定例会号）

市議会だより

学校は地域と連携・協力を
 議員 子どもの安全確保に、地域の協力も必要と思うが、考えは、教育長 見守り隊など組織されており、児童の様々な活動にも支援するグループが構成されれば、学校の勢いも高まると思う。

相談窓口や子ども課の設置を
 議員 子育ての疑問や不安に答える総合相談窓口の設置は、健康福祉部長 児童福祉法改正により市町村が担う相談援助の役割が大きくなり、現在、相談支援体制の充実について検討しており、一層の充実を努めたい。
 議員 子育て支援の拠点施設、行政、団体等のネットづくりのため「支援センター」の設置は、健康福祉部長 地域福祉計画の鶴岡子ども家庭支援センター（仮称）構想の中で検討していく。
 議員 総合的な子ども行政の展開のため「子ども課」の設置は、健康福祉部長 子どもの成長に適切で継続的な支援体制を整える方向で考えており、組織再編が必要な箇所は検討したい。



御来館記念
 平成17年10月30日

10月30日 鶴岡市第3地区身体障害者福祉協会の方々と庄内南部長視察



9月23日 大山公園にて「ポニースクール」の実行委員として開催



12月17日 「鶴岡手をつなぐ親の会」でそば打ち

- 一人の手
- 1、ひらの小さな手 何で書かなくとそれでも、みんなの手が重なれば何ができる 何ができる
 - 2、ひらの小さな目 何を見えなければそれでも、みんなの目であらわせば何ができる 何ができる
 - 3、ひらの小さな足 何を踏まないでそれでも、みんなの足が重なれば何ができる 何ができる
 - 4、ひらの小さな心 何を思わないでそれでも、みんなの心が重なれば何ができる 何ができる
 - 5、ひらの小さな声 何を言わないでそれでも、みんなの声が重なれば何ができる 何ができる